

2012年1月30日

## 小倉ゼミの運営

神谷 剛(M2)

### 1. 小倉ゼミの目的

小倉ゼミのカリキュラムは、二つの目的のために構成されている。第一は、社会人院生に論文づくりに必要な基礎能力とは何かを理解させ、実践訓練を通じ能力の向上を図ることである。第二は、ゼミとして集団の頭脳や知を形成していくことである。

基礎能力とは、考える力、書く力、論文を組み立て、構成し、まとめる力の3つである。考える力は、通り一遍の「見る、聞く、読む」では十分でなく、高度化した「みる、きく、よむ」力が必要である。書く力とは、作文や感想文とは異なる、客観的な事実データに基づいた論証する方法である。論文を組み立て、構成し、まとめる力には、筋道ある展開や主張の整合性による説得力が必要である。集団の頭脳や知とは、ゼミ員それぞれの知見をゼミを通じあらたな知見を導き出すこと。そのためのゼミ活動のノウハウを記録し、受け継いでいくことである。

### 2. 社会人院生にとっての小倉ゼミ

社会人院生にとっては、基本能力の積み上げと蓄積から遠ざかること、時間が絶対的に不足することなどの厳しい現実がある。小倉ゼミでは、社会人の制約条件を踏まえ、経験や能力を活かしたカリキュラムがある。基礎能力と仕事能力の向上の関連付け、社会人に適合する独自のカリキュラム、学生の共同による新しい認識への到達経験などである。基礎能力を仕事能力に置き換えてみる。考える力とは、論理化能力であり、書く力は、説明能力、表現・表出能力、コミュニケーション能力である。また、論文を組み立て、構成し、まとめる力は、見通しと構想化の能力である。さらに、論文づくりで培う応用化能力とは、端的に言えば、社会人の仕事能力の向上そのものである。

### 3. 小倉ゼミのカリキュラム

これを実践するために、次の3つのメニューを取り入れている。第一は、研究方法の構築のためのメニューであり、ゼミ中に実施する。第二は、書く方法とスキルの獲得のためのメニューであり、ゼミ報告、資料作成などゼミの開催前後に行う。第三は、仕事能力の向上につなげるためのメニューであり、ゼミの運営を通じ行う。このように、論文をつくることだけに目を向けず、その経験の中から仕事能力の引き上げも考えられている。

毎月1回の定例ゼミのほか、第2ゼミおよび第3ゼミが開催される。教室でのゼミのほか、合宿形式でのフィールドワークが実施される。事前の課題や事後の報告書の作成もゼミ活動の一環となる。時間的制約で欠席する場合でも、事前事後の活動の参加することにより、ゼミ員は基礎能力を向上させることができる。

以上